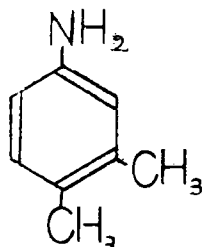


3,4-ジメチルアニリン(通称3,4-キシリジン)の
分 解 度 試 験 成 績 報 告 書

1. 試験期間 昭和51年12月17日～昭和52年3月26日
2. 試料名 3,4-ジメチルアニリン(通称3,4-キシリジン)
(試料No K-239)

分子式 $C_8H_{11}N$

構造式



性 状 純 度 99.89 %
融 点 48.9 °C
水 分 0.09 %
異性体 0.02 % (2,3-キシリジン)
(提示資料による)

3. 試験方法及び条件

環保業第 5号 }
薬 発第 615号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による
49基局第 392号 }

試料濃度 30 ppm, 汚泥濃度 100 ppm, 試験期間 4 週間

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

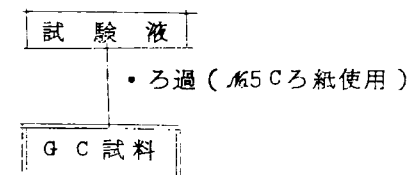
3.1 の記録による

3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 アピエゾン L / クロモソルブ W

ガラスカラム 2 mm ϕ \times 2 m

カラム温度 120 °C

4. 試験結果

	分解度 (%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	7.1	1	—
GC による結果	4.8	2	1

5. 参考試験

参考試験として汚泥濃度 1000 ppm, 試料濃度 30 ppm, 試験期間 4 週間で開放系にて行つた。

試 験 結 果

	分解度 (%)	付 図	付 表
GC による結果	15.4	2	2

6. 備 考

直接法で密閉系, 開放系ともやや分解の傾向が出たが、回収率は水系が一番大きく、汚泥濃度の増加と共に小さくなる。そこでこの回収率を用いて分解度を計算し直すと、何れも分解度 0 (-) となる。

以 上